

## オリエントナノ便り

お客様各位

拝啓 晩秋の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

あっと言う間に今年も残す所わずかになってしまいました。

先日はパリで同時多発テロがおこり、世界を震撼とさせました。このテロに関しては実に様々な情報があり、武器を更に売るための仕掛けに過ぎないという話もあります。いつの時代も戦争によって武器産業はおおいに儲かります。

世界を動かしている見えない力というのは本当に狡猾です。

そんな殺伐とした時に、たまたま「シャーリー&ヒンダ」と言うマイケル・ムーア監督の映画を見ました。92歳と86歳の電動車に乗ったシアトルのおばあちゃん二人が、「なぜ経済は成長しなければならないのか？」という疑問に目覚めて大学生や大学教授、経済アナリストらに質問を繰り返し、ついには世界経済の中心であるウォール街へ飛び込んで行くという心温まる映画でした。監督のムーア氏のコメントです。

「これを踏まえて、日本の方々にこの映画をどう見てほしいかと言えば、ニュース番組では報道されないアメリカの違った一面を見てほしい。僕はアメリカ人として、多くの人にこの映画を見てもらいたいと願っている。そして僕がいかに心を込めて作った映画なのか理解していただきたい。“お金”と“自分の魂”のどちらが大切なのか考えてもらいたい。単に金儲けのためにこの島国で生きるべきか？ または誰かの利益のために身を粉にして働くべきなのか？ 暴走するカウボーイのようなウォール街の連中に経済を牛耳らせるか？ もしくは、そのすべてに『ノー』と答えて、元々日本人は自分たちの手でもの作りをしてきた産業国なのだから、今一度その道に戻るべきではないのか？ こういったことを自分自身に問いかけてほしいんだ」

「しあわせとはなんなのか？」という大切なテーマを、年老いても好奇心を失わない二人のおばあちゃんを通して問いかける素敵な映画でした。二人の会話に「死んだらどうなるか？」という話が出てくるのですがシャーリーが「旅立つのよ」と言うとヒンダが「どこへ？」と聞き、それにシャーリーが「さあわからない。でもどこかに・・・」と言うセリフもジンと来ました。年を重ねてもこの二人のような純粹なばあちゃんになりたいなとも思いました。すっかり映画の話に夢中になってしまいごめんなさい。

これから本格的な寒さを迎えます。くれぐれも心身ともにご自愛下さいますように・・・



何卒今後共宜しくお願い申し上げます。

敬具

平成 27 年 11 月 30 日

代表取締役 花輪麻美